

『日米交流事業』
(2023年2月放送)

MC : ○ この放送をお聞きの皆さんこんにちは。『防衛問答 近中でごさる』、この番組は防衛省近畿中部防衛局の協力によりお届けします。今回は近畿中部防衛局地方協力確保室のA室長にお越し頂きました。

○ Aさんには、昨年の放送で防衛省・自衛隊の防災との関りや日頃からの防災への備えの大切さについてとても分かり易く、役に立つお話をして頂きました。今回が今年初めての放送となりますがよろしくお祈いします。

A : ○ 放送をお聞きの皆さん、こんにちは。近畿中部防衛局のAです。ただ今、MC身に余る紹介がありましたが、今年初めての放送となります。遅ればせながら今年もよろしくお祈いします。

○ 今回は、私の所掌業務の「地方協力確保に関する業務」のうちの一つである「日米交流事業」のお話をさせていただきます。その前にそもそも「地方協力確保に関する業務」とは何か、過去の放送でお話したこともありますので既にご承知の方もいらっしゃると思いますが、改めて簡単に説明します。

○ 防衛省・自衛隊は国の防衛をはじめ、災害派遣、国際平和協力任務、国際緊急援助活動などの幅広い役割を担っています。万一の際に自衛隊が円滑に最大限の役割を果たすことができるように各種防衛政策を実現するためには、国民の皆さまのご理解とご協力が必要となります。

○ そのために、地方公共団体や地域住民の皆さまのご理解とご協力を確保する事務のうち、「広く防衛政策について理解を得るための業務」、「各種事態への実効的な対処を行うために実施する業務」のことを「地方協力確保に関する業務」と言います。

○ 「地方協力確保に関する業務」のうち、「広く防衛政策について理解を得るための業務」には、このFMマザーシップの放送を通じ各種防衛政策に関する話題をお届けしたり、毎年刊行される防衛白書を広く周知するために地方公共団体等への説明を行ったりすることや防衛政策に関するトピックなどをテーマにした防衛問題セミナーの開催などがありますが、そのうちの一つに、今回お話しする「日米交流事業」の企画、実施も含まれています。

MC : ○ その他にも講師派遣や自衛隊行事などの各種イベントでの政策広報活動など幅広く活動されているんですね。

A : ○ はい。おっしゃるとおり、いろいろ幅広く活動しています。活動内容については、近畿中部防衛局のホームページで紹介していますので、この放送をお聞きになって興味をお持ちになられた方は是非ホームページをご覧ください。

MC : ○ 今日はその幅広い活動の中から「日米交流事業」のお話を下さるんですね。

A : ○ はい。日本国内に駐留する在日米軍が使用する施設の安定的使用を維持するためには、米軍施設周辺に居住する住民の皆さまの米軍の駐留や施設の使用に対するご理解とご協力を得ることが欠かせません。

- そのために、在日米軍施設に勤務する米軍人などやその家族と米軍施設近隣地域にお住いの住民の皆さまとの交流を図り、相互理解を深め、信頼関係を醸成させることにより、米軍施設に対する地域住民の皆さまのご理解とご協力を得るための施策の一つが「日米交流事業」です。
- MC : ○ 以前の放送で日米交流音楽会や各地方防衛局が趣向を凝らした交流イベントを開催されていると伺いました。確か、東北防衛局では、ローカル色豊かな「かかし作り交流プロジェクト」を実施されたと覚えています。
- A : ○ そうですね。「かかし作り交流プロジェクト」は大変好評で今も実施しているんですよ。このように、日米交流事業のイベント開催は、各地方防衛局に企画、実施が委ねられているため、各局とも知恵を絞って工夫を凝らしているところですが、ここ数年は新型コロナ禍で各局ともイベント実施の見送りや縮小を余儀なくされています。
- MC : ○ コロナとの共存を目指し、全国各地で様々なイベントが再開されていますが、第8波の感染拡大や医療機関の逼迫が続くなどまだまだ先行きが見通せないこともあり悩ましいところですよ。
- A : ○ MCさんも、バイオリンの演奏活動や色鉛筆画の個展開催など日頃からエネルギーに活動されていますね。この2月には、色鉛筆画の個展を初めて湯浅町でも開催されるとお聞きしました。
- MC : ○ そうなんですよ。これまで各地で色鉛筆画の個展を開催してきましたが、4回目となる今回の個展を初めて地元の湯浅城で開催することになりました。開催期間は、2月18日から23日の6日間です。この放送をお聞き下さっている皆さんも是非お越し下さい。お待ちしております。
- A : ○ それでは、ここからは、近畿中部防衛局の「日米交流事業」への取り組みを紹介させていただきます。過去の放送でも何度かお話をさせて頂きましたが、当局の管内には、近畿地区で唯一の在日米軍施設である陸軍経ヶ岬通信所が京都府北部の日本海側に面する京丹後市に所在しています。
- 経ヶ岬通信所には、日本海に向かってミサイルを補足する早期警戒レーダーが配備されています。三沢や横須賀、岩国などのように大きな施設ではなく、規模的には小さく、そこに勤務する軍人等も多くないためなかなか大規模な交流は難しいのですが、創意工夫しながら普段接する機会の少ない市民の皆さまと米軍関係者がスポーツや文化活動といった交流を通じ、共に時間、場所、体験を共有することにより、お互いに良き隣人として相互理解を深めることのできるような取り組みを行っています。
- MC : ○ 小さな施設とは言いながらそこに勤務する軍人等の方々と地域の皆さんとの交流が大切なのは変わりませんよね。
- A : ○ おっしゃるとおりです。それでは「日米交流事業」の中で最も大きく注目を集めるイベントであり、京丹後市民の皆さんも楽しみにしている「日米交流音楽会」から紹介させていただきます。
- MC : ○ よろしくお願ひします。

- A : ○ 経ヶ岬通信所の運用が始まったのは、平成26(2014)年12月ですが、平成28(2016)年6月に京丹後市の京都府丹後文化会館で初めての日米交流音楽会を開催しました。
- 米軍から空軍太平洋音楽隊パシフィックショーケースと経ヶ岬通信所に加え、地元からは丹後吹奏楽団やプティエトワール・モダンバレエ教室にご出演頂きました。会場にお越しの皆さまと「世界に一つだけの花」や「翼をください」を和やかに合唱したり、カーテンコールでは「花は咲く」を一緒に歌うなど大いに盛り上がりました。
- 当日は地元の皆さま約600名が来場されましたが、「京丹後でこのような素晴らしい音楽が聴けて大変感動した。」、「またこのような機会を設けてほしい。」などの感想を頂きました。
- MC : ○ 会場にお越しの皆さんが演奏に合わせて一緒に歌えるなんて何て素敵なんでしょう。
- A : ○ そうですね。このコロナ禍ではなかなかそこまではできませんが、またそのようなことができたなら素晴らしいですね。翌年8月に同じく京都府丹後文化会館で2回目の日米交流音楽会を開催しましたが、当日はMCさんも取材にお越し下さり、その模様はこの放送でもご紹介させて頂きました。
- MC : ○ 今でも昨日のことに覚えています。在日米陸軍軍楽隊や丹後吹奏楽団の演奏も素晴らしかったですが、丹後地区にお住いの女性で構成される木琴演奏チーム・マリンバアンサンブルの見事な演奏が今でもよみがえってきますよ。
- A : ○ お陰様で日米交流音楽会は、1回目、2回目とも非常に好評を博しました。3回目は平成31(2019)年3月、これまで同様、京都府丹後文化会館において開催しましたが、口コミで市民の間に話題が広がり、当日は立ち見が出るほど多くの方にお越し頂き、大盛況となりました。
- 空軍太平洋音楽隊に加え、地元の丹後吹奏楽団、プティエトワール・モダンバレエ教室の参加は既にお馴染みになりましたが、今回は新たに地元の峰山中学校吹奏楽部が参加してくれました。
- 音楽会の前に空軍太平洋音楽隊の隊員から丹後吹奏楽団員や峰山中学校吹奏楽部員が楽器の演奏指導を受けるなどの新たな交流がありました。
- 音楽会では、峰山中学校吹奏楽部が幕が下がる最後まで会場に笑顔をふりまきながら一生懸命演奏してくれました。また、プティエトワールは、丹後吹奏楽団の「ダンシングヒーロー」の演奏に合わせバブリーダンスを踊り大いに会場を盛り上げ、拍手喝さいを浴びました。
- 終演後は空軍太平洋音楽隊にアンコールの声がかかり、有名なグレンミラーオーケストラの代表曲「イン・ザ・ムード」が演奏され、世代を問わず会場が一体となり大盛況のうちに終了しました。
- MC : ○ 峰山中学校の生徒にとってはとても良い思い出になったでしょうね。荻野目洋子のヒット曲「ダンシングヒーロー」に合わせ躍動的に踊る大阪の登美丘高校の女子高生によるバブリーダンス、バブルを知らない世代で再演され一世を風靡し

ました。プティエトワールのバブリーダンス、私も見てみたかったですね。

- それでは、ここでひと休み。音楽会でも演奏されたバブル景気真っ盛りの1985年(昭和60年)に発表された荻野目洋子のヒット曲「ダンシングヒーロー」、ラジオをお聞きの皆さんもこの曲を聴きながら、バブリーダンスの様子を想像し、当時を懐かしんでもらえればと思います。

♪♪「ダンシングヒーロー」♪♪

MC : ○ 『防衛問答 近中でござる』、この番組は防衛省近畿中部防衛局の協力によりお届けしています。それでは、Aさん、引き続きよろしくお願ひします。

A : ○ 先ほど、3回目の開催となる平成31(2019)年3月の日米交流音楽会において、これまでの丹後吹奏楽団に加え、峰山中学校吹奏楽部にも参加して頂き、空軍太平洋音楽隊と学生たちとの交流があったことをお話しました。

- 実は、その際、空軍太平洋音楽隊が地元の島津小学校を訪問し、演奏活動を行ったんですよ。その様子をお話しさせていただきます。当日は、演奏活動以外に空軍太平洋音楽隊と経ヶ岬通信所の隊員が児童の皆さんと一緒に給食を食べる交流も行いました。

- この交流は、島津小学校の「国際交流クラブ」に所属する児童が、近くに住む外国の方々との交流する機会を持ちたいとの強い思いから、自らの発案で交流会を企画し、そこに参加した経ヶ岬通信所の関係者とのつながりをきっかけとして、演奏会の開催に至ったものです。

- 当日は、空軍太平洋音楽隊の演奏に合わせて、童謡「手をたたきましょう」などを英語で合唱し大いに盛り上がりました。

MC : ○ ♪手をたたきましょう タンタンタン タンタンタン 足ぶみしましょう ダンタンタンタン タンタンタン♪、お遊戯でよく歌われる曲ですね。小学生が英語で合唱できるなんて凄いですね。

A : ○ そうですね。私たちの世代では英語は中学校に入ってからでしたが、今は小学校3年から授業があるみたいです。校長先生からは、島津小学校では英語教育に力を入れており、先ほどお話したような地元に住む外国人との交流も児童が自主的に行っていると伺いました。

- 演奏後は空軍太平洋音楽隊と経ヶ岬通信所の隊員が各教室に分かれ、クラスの児童たちと一緒に机を並べて給食を食べました。アメリカの給食はいくつかのメニューから好きなものを選んで食べるカフェテリア形式の給食が多く、日本のように全校一斉に同じメニューを食べるとするのは珍しいそうです。一つ余談を紹介させて下さい。

MC : ○ 为什么呢。

A : ○ 当日のメニューは和食中心で「田舎汁」と「きんぴらごぼう」が出されました。これを米軍に伝えるのにひと苦労しました。「田舎汁」はアメリカにも同様の「country soup」というごった煮料理があることから、そのまま「japanese style

country soup」と訳しました。

- 難しかったのは、「きんぴらごぼう」です。そもそも欧米ではごぼうが食材として扱われることがほとんどなく、同様の料理が見当たりません。そのため、調理法で説明することとし、「burdock root in soy sauce and sugar」と訳して何とか理解を得ることができました。ちなみに日本に居住する外国人には、ごぼうは「gobo」を通じ、食材としても認識されていることをその時に知りました。
- MC : ○ おからとかも出なくてよかったですね。和食も世界的に人気となっており、今では醤油や味噌、お豆腐もそのまま通じるみたいですね。
- A : ○ そんな笑い話みたいなこともありましたが、給食で児童たちは、普段の英語の授業や「国際交流クラブ」での成果を存分に発揮し、習った英語表現を使って積極的に会話したり、身振り手振りなどを駆使して活発に交流を楽しみました。
- MC : ○ そうなんですか。国同士の文化の違いなどを知り、お互いに理解しあうことが国際交流の醍醐味だと思います。子供たちにとってとても思い出に残る貴重な経験になったに違いありませんね。
- A : ○ そうですね。子供たちにとっても良い経験になったようです。その時の子供たちから寄せられた感想を紹介させていただきます。「音楽隊の人が帰るときにハイタッチしてくれました。いろんな英語を教えてもらい楽しかったです。外国の人と一杯しゃべりたいです。」、「一緒に歌ったり踊ったりして楽しかったです。」、「本物のバンドを初めて見てびっくりしました。時間が経つのが早く感じました。」、「音楽を聴いてとっても心に残りました。これまでの小学校生活で一番の思い出になりました。」などここでは紹介しきれないほどのたくさんの感想が寄せられました。
- MC : ○ 子供たちの生き生きとした様子が目に浮かびます。本当に何のものにも代えがたいほどの貴重な体験になったと思います。
 - ここまで3回にわたる日米交流音楽会のお話を伺ってきましたが、新型コロナ禍により令和3（2020）年の音楽会が残念ながら中止を余儀なくされ、それ以降開催を見送られているとお聞きしました。
- A : ○ そうなんです。令和3（2020）年2月に開催する方向で調整を進めていましたが、新型コロナ感染症の拡大に伴う政府の大規模イベント開催中止の要請を受け、音楽会も中止せざるを得なくなりました。
 - いまだ新型コロナ禍の終息が見通せませんが、各地で感染症対策を万全に講じた各種イベントの開催が再開されていることから、近畿中部防衛局でも今年の2月19日に京丹後市の京都府文化会館で4回目となる日米交流音楽会を開催することになりました。
- MC : ○ それはとっても良いニュースですね。
- A : ○ もちろん感染症対策を万全にしたうえで、入場者を定員の半分としたり、参加者を在日米陸軍音楽隊と丹後吹奏楽団のみに絞ったりしていますが、それでも4年ぶりの開催となりますので、楽しみにされている方も多しとお聞きしています。
 - 当日の様子は来月のこの放送でご紹介させていただきます。皆さん楽しみにしてい

て下さい。

MC : ○ そうですか。それはとっても楽しみです。

A : ○ ここまでは、近畿中部防衛局が主催する日米交流事業のうち最も大きなイベントである「日米交流音楽会」のお話をしてきました。当局が主催する交流イベントには、このほかに平成31(2019)年10月に京丹後市弥栄総合運動公園社会体育館において開催した、「日米交流ビーチボールバレー大会」のようなスポーツ交流があります。これにつきましては、以前の放送でご紹介させて頂いたこともありますので、ご存じの方もいらっしゃると思います。

MC : ○ そうですね。その様子は女性職員からとっても白熱した熱戦が繰り返され、大いに盛り上がったとお聞きしました。

A : ○ ここからは、この放送をお聴きの皆さんには初めてのお話となりますが、米軍経ヶ岬通信所が独自に行っているボランティアなどの交流活動をご紹介します。ご紹介する中でそのイベントに関わった方々、おもに米軍関係者へのインタビューを時間的な制約もあり、直接の声を伝える訳にはいきませんが、本日は私の方から代わりにご紹介させて頂きたいと思います。

MC : ○ よろしくお祈りします。

A : ○ アメリカではたいいていの方が一度や二度はボランティアをした経験があり、ボランティア精神に基づく活動はアメリカの伝統とも言われています。ボランティア活動はアメリカ国内に広く浸透しており、子供の頃から日常的に見受けられるものとなっています。

○ 経ヶ岬通信所に勤務する米軍関係者も同様に地域社会の一員として、地域の皆さまの良き隣人たらんとすべく、日頃からスポーツや文化活動などの交流を通じ積極的にボランティア活動に取り組んでいます。

○ 最近、日本でもハロウィンが盛大に行われるようになりましたが、経ヶ岬通信所では、ハロウィンのみならず、クリスマス、イースターなどのアメリカのイベントを通じ積極的に地元と交流を図っています。

○ ハロウィンでは、米軍関係者がゾンビやモンスターなどに扮したお化け屋敷やフェイス・ペイント、トリック・オア・トリートなどで楽しい時間を過ごしました。

○ アメリカのハロウィンでは、子供たちを怖がらせることが一般的だそうで各自が趣向を凝らした仮装で参加しましたが、何人かは少し張り切りすぎたようで、その姿を見て泣き出してしまうお子さんもいたようです。また、ボランティア・スタッフとして参加された自衛官の奥さんは見事に「貞子」に扮し、子供たちを怖がらせました。

MC : ○ アメリカのゾンビに日本の「貞子」、それは日米を代表する最強のコンビですね。私も見てみたかった。

A : ○ ここでイベントに参加した米軍関係者の声を紹介させていただきます。「家族と離れ外国の地に赴任する私たちにとって、地域の皆さま、とりわけ子供たちとの交流というのはかけがえのない時間です。」、また、別の方は、「新型コロナ禍の

中で規模を縮小しながらも地域の皆さまとハロウィンイベントを開催することができとても嬉しく思います。私たちもこのイベントを非常に楽しみに一生懸命準備をしてきました。子供たちの喜ぶ顔を見ることが一番幸せな瞬間です。」などと話してくれました。

MC : ○ 本国の家族と別れて暮らす米軍関係者の方々にとってもつかの間のやすらぎとなったでしょうね。クリスマスなんかも盛大じゃないんですか。

A : ○ そうですね。クリスマスイベントも地元では人気の行事になっているみたいです。参加者が「ジングルベル」などのクリスマスソングを歌っているところにサンタクロースに扮した米軍関係者が登場し、子供たちにプレゼントを配り、皆で歌ったり踊ったりしたそうです。

○ 地元の区長さんは、「多くの米軍の皆さんが参加してくれてイベントを盛り上げてくれました。お陰様で地域の皆さんも子供たちと一緒に交流を楽しむことができました。」ととても喜んで話してくれました。

○ また、米軍関係者も、「私たちは常にボランティアを通して地域の皆さまと交流することを楽しんでいます。今後も可能な限りこのようなイベントを続けていきたいと思っています。」と話してくれました。

○ コロナ禍の中ですが、今年のクリスマスでは、地域交流の一環として感染症対策に配慮した米軍関係者が、京丹後市丹後町、網野町、大宮町、峰山町のこども園や乳児院を訪問しました。

○ サンタクロースに扮した隊員から子供たちにプレゼントを配りました。子供たちは歓声を上げたり、大柄な隊員が扮したサンタクロースを本物と間違えたり、あまりに大きなサンタクロースに驚いていました。

○ サンタクロース役を務めた隊員の声を紹介させていただきます。「新型コロナ禍で暗いニュースが多い中、少しでも明るい話題を届けたいと思いました。経ヶ岬通信所の多くの関係者は様々な制限下、クリスマス休暇に帰国して家族と過ごすことがないままでしたが、子供たちの笑顔で逆にたくさんの元気をもらいました。早く状況が改善して、これまでと同じようにより多くの子供たちと交流できるようになることを願っています。」と話してくれました。

MC : ○ 中国の武漢に発した新型コロナも今年で4年目を迎えますが、何とか一日も早く終息し、元どおりの生活に戻ってほしいものです。神頼みでも何でも病魔退散をお願いしたいですね。

A : ○ これらの活動は経ヶ岬通信所が自主的に行っているものですが、決して米軍だけでなし得るものではなく、それを支えて頂ける地域の皆さまや多くのボランティア・スタッフのご協力を得てこそ成り立つものです。多くの活動は京丹後市国際交流協会に多大のご支援を頂いています。その御礼の意味を込めて、少しだけ京丹後市国際交流協会の活動を紹介させて下さい。

MC : ○ お願いします。

A : ○ 京丹後市国際交流協会は、平成20(2008)年3月に設立され、翌年9月から“一人ひとりの日本語教室”として、学習のニーズ、レベル、生活スタイル

に合わせた日本語教室をスタートしました。

- 京丹後市における外国人の数が平成27（2015）年の339人から令和3（2021）年には431人に増加しました。これは、京都府下26自治体のうち14位となる人数です。そのような情勢の中で京丹後市は、京都府内で初めて“多文化共生の推進”を掲げた「京丹後市多文化共生推進プラン」を策定し、外国人を含めたすべての人が真に住みやすいまちづくりの推進に向けた取り組みを行っています。
- 更に、平成27（2015）年から3年間の第1次推進プランの終了に伴い、更に多文化共生を推進するため、平成30（2018）年から5年間の施策をまとめた「第2次京丹後市多文化共生推進プラン」を策定し、「国籍・民族・文化などの違いを認め合い、ともに豊かなまちづくり」の実現を目指しています。
- これらを受け、国際交流協会においても、活動目標に「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」を理念として「多文化共生社会の実現に向けた取り組みの推進」を掲げ、地域への理解促進や外国人が活躍できる土壌づくりを行っています。
- 経ヶ岬通信所の米軍関係者は、これまでにご紹介してきたハロウィンやクリスマスのイベントを国際交流協会と一緒に開催するだけではなく、協会が主催する日本文化を体験するお茶や生け花の文化交流イベントにも参加しています。
- お茶会に参加した米軍関係者は、「この交流で楽しい時間を共有し、新たな友人を作ることができるとともに、茶道の伝統を学ぶことにより思考を広げることができました。」と話してくれました。

MC：○ まさに京丹後市が目指している多文化共生の実践ですね。本当に素晴らしい活動、取り組みだと思います。

A：○ その他にも地域に招かれての交流もあるんですよ。

MC：○ どのような交流なんですか。

A：○ 日本の伝統行事になりますが、節分の豆まきや秋祭りに参加しました。豆まきは経ヶ岬通信所が所在する袖志地区で開催された交流イベントで体験しました。この交流イベントは袖志地区にて毎月開催されている英会話交流の中で開催されたものです。

○ 鬼役で参加した米軍関係者は、「とてもエキサイティングでした。アメリカにはこのような行事はないのでとても興味深かったです。豆まきは一家全員に福が来るように願いながら行うものだと知りました。私たちは“袖志ファミリー”の一員として、皆さんに福が来るように願いました。子供たちに投げられた豆は少し痛かったですけど。」と笑いながら話してくれました。

○ もう一つの秋祭りは、日米交流音楽会のお話の中でも紹介した島津小学校での音楽会やハロウィンイベントなどを通じ、日頃から交流の深い島津地区から秋祭りへの招待を受け参加が実現しました。メンバー全員にとって日本のお祭りに参加するのは初めての経験であり、法被を着たり神輿を担いだりしとても興味深い

経験となりました。

- 秋祭りに参加した米軍関係者は、「地域の皆さまが秋祭りを大切にされているのを感じました。そのような場に招待されたのは非常に光栄なことです。朝から夕方まで神輿を担ぐのは大変でした。でも、地域の皆さまと心が一つになったと感じました。」と笑顔で話してくれました。

MC : ○ こちらもまさに多文化共生、日本の伝統と文化を経験する素晴らしい機会となりましたね。

A : ○ このような米軍の活動状況は経ヶ岬通信所の Facebook で紹介されていますので興味のある方は是非一度ご覧下さい。【<https://www.facebook.com/14MDB/>】

MC : ○ Facebook で紹介されているんですね。とっても興味があります。一度見てみたいと思います。

A : ○ よろしくお祈りします。以上は経ヶ岬通信所の活動を紹介してきましたが、次に個人的な交流をご紹介させていただきます。経ヶ岬通信所の関係者の中には、日本の文化をより深く知りたいと進んで地域に溶け込み活動する方もたくさんいます。ここでは弥栄中学校の柔剣道場で居合の稽古に励んだ軍人のお話をさせていただきます。

- 彼は、以前から日本の柔道や剣道、そして居合道といった武道に興味を持っており、日本への赴任が決まったとき、侍の精神を象徴する武道である居合道を習いたいと思っていました。彼は、弥栄中学校の柔剣道場を活動拠点とする居合道の道場があり、毎週日曜日にメンバーが集まり活動していることを知りとても興奮したそうです。

- 早速、彼は練習生となり言葉の壁を乗り越えて稽古に打ち込みました。彼はそこで学んだことを振り返り、「居合道とは日本刀を使った精神と身体を鍛錬する武道です。「武」の象徴である日本刀を手に「型」を通して今この瞬間の己と向き合います。居合道は己との戦いでもあり、武器を手にする者には安定した情緒と自制心が求められ、高い集中力を保ち、そしていざというときは心を解き放って力を奮います。」と話してくれました。

- 道場の師範は、彼について、「最初は外国人に居合道ができるのかなというのが正直な気持ちでしたし、続かないのではとも思っていました。彼は自分用の模造刀を購入してまで熱心に稽古に参加しました。彼の真剣さが伝わってきたし、他の仲間も彼を完全にメンバーとして受け入れました。ここで得たことをずっと忘れないで欲しいです。」と話してくれました。

- 最後に彼は、「居合道を通して学んだ侍の精神というものは、同じく武器を手にする私たち軍人にも通じるものがあると思います。決してお金では買えない貴重な経験ができたと思います。そして師範をはじめとして生涯にわたる師や友人を得ることができたのは何事にも代えがたいことです。」と話してくれました。

MC : ○ これもとっても素晴らしいお話ですね。私たちも見習いたいものです。

A : ○ その他にも日本人に交じって剣道の稽古に励んだ人もいたんですよ。これらの活動以外にも海岸清掃などの地域の美化活動にも参加しています。特に、令和3

(2021)年1月に日本海側を襲った強い寒波による高波と暴風で京丹後市の海岸に大量のゴミが漂着し、網野町の小浜海水浴場の砂浜が一面漂着物で覆われてしまったことから立ち上がった地元有志に加わり経ヶ岬通信所の米軍関係者も海岸の清掃活動に従事しました。

- 清掃に参加した米軍関係者は、「思っていた以上にひどい状態でした。京丹後市の美しい海岸は地元の方々のたゆまぬ努力で維持されているということがよく分かりました。私たちも地元の一員としてできることを続けていきたいです。」と話してくれました。
- MC : ○ 日頃からの地域での地道な努力はもちろん、いざ何かあったときには垣根を越えてお互いに助け合うことが何よりも大切だと思います。まさにこれこそ「共助」の精神ですね。
- A : ○ このほかにも、平成29(2017)年9月の台風18号、翌年9月の台風24号により地元に大きな被害をもたらしましたが、経ヶ岬通信所の米軍関係者がいち早く駆け付け、道路を塞ぐように並んだ大きな石や流入した土砂の排出や被害家屋から泥をかき出したり、家具を運び出す作業を支援しました。この活動は、地域の人々に大変歓迎され、復旧に貢献してくれたと大いに評価されました。
- 活動に参加した米軍関係者は、「私たちも地域社会の一員です。私たちは良き隣人でありたいと考えています。困ったときはお互い様です。今回、陸軍の奉仕の精神、規律の取れた態度を示すことができたと思います。」と話してくれました。
- 以上、今回は日米交流事業を中心に米軍経ヶ岬通信所の活動を通じた地元との関りについてお話してきました。米軍関係者は、数多くの地域のイベントに参加し、地元の皆さまとの交流やボランティア活動を続けていくことを通し、この素晴らしく美しい地域の一員として受け入れられたこと、育んできたこの良好な関係を今後も維持し、お互いに深く意味のある影響を与えることを願いながら日々の活動を続けていることをご紹介し結びとさせていただきます。
- 本日も最後までお付き合い下さいましてありがとうございます。次回の放送では、番組の中でも紹介しました、2月19日に4年ぶりに開催される日米交流音楽会の模様を中心にお送りします。
- MC : ○ A室長ありがとうございました。次回の放送も楽しみにしています。初めての日米交流音楽会のフィナーレで会場にお越しの皆さんと一緒に合唱された「花は咲く」、この曲は東日本大震災の被災地及び被災者の復興を応援するために制作されたチャリティーソングです。一日も早くコロナ禍が終息し、皆さんが気兼ねなく合唱できる日常が戻ることを願う意味を込めてこの曲を聴きながらお別れしたいと思います。リスナーの皆さん、今回も最後までお付き合い下さいましてありがとうございます。

♪♪「花は咲く」♪♪

(完)